2021年　9月9日　2年1組「菖蒲」

菖蒲

ウトナイ中
2年1組

新NEW型コロナ猛威

人々の交流の場は…

沼ノ端交流センター

コロナ禍の施設運営

沼ノ端交流センターは、さまざまな年齢の人が交流することを目的として作られた施設だ。そんな交流センターの、コロナ禍での施設の運用について、取材した。

沼ノ端交流センターでは、新型コロナウイルスの感染者を出さないための取り組みをしている。そこで、私達は交流センターで行っている感染対策や今後の活動について役員の佐藤さんに話を伺った。

学校と同様に多くの人が利用している交流センターではこのコロナ禍で、どのような対策と運営をしているのかを主に取材させて頂いた。

本来沼ノ端交流センターは小さい子供が楽しく遊べるような遊具や、図書館、苫小牧出張所、様々なイベントができる部屋、ダンスやバンド用スタジオがある。また、スポーツセンター、プール、スケートリンクなども隣接しており、様々な年代の人が楽しめる安全な施設なのだ。

しかし現在社会問題となっている新型コロナウイルスの影響により、今までできていたイベントや活動が制限させたり、中止となっており、施設を利用する人が減っている。例えば、毎年企画しているサマーアドベンチャーという夏の催しも中止、遊戯室のボルダリングも利用不可、集団でのイベントの多くが中止となり、大きな影響が出ている。

そのため、交流センターは感染者を出さないための取り組みをしている。例えば、子供が使うおもちゃや本の消毒の徹底、入館退館時の消毒の呼びかけ、換気、遊具の数を減らす、人数制限などをして密を避ける対策をしている。また、感染対策をした上で、「トピリカアートフェス」という、コロナ禍の外出自粛時に家で描いた絵や美術作品を展示するイベントを計画しているそうだ。

次に、運営上、苦労しているお話を伺った。「色々な世代の方が利用している。その中で子供が騒いでしまって、他の利用者に迷惑がかかっていないか」や「利用場所を間違っていないか」ということで飛沫感染や他人との接触に神経を使うようである。

また、仕事上での喜びを伺うと、「愉しかった」と言ってくれることで、感染対策で苦労していても、利用者が喜んでくれることが活力になっているようである。

私達は、こうした制限があるコロナ禍で、安心して利用できるよう工夫し、感染者を出さない努力をしている人たちに感謝し、自らも感染対策の意識を高め、行動しなくてはならないのではないか。

私達のウトナイ中学校でも体育大会や学校祭などの活動が制限されたり、分散登校を行ったりと、学校生活に影響を受けた。こういった制限を減らし、活動の幅を広げるためにも、もっと生徒全員が感染対策を徹底し、お互いが安心して過ごせる学校にしなくてはならない。

マスク着用や手指消毒などはできている。課題は密を避ける行動だ。この課題を一人ひとりが真剣に考えて行動することが今後のウトナイ中学校の目標だと、私は思う。

消防隊員の苦労と私たちにできること

苫小牧市内で1年間に出動した消防、救急車の全ての出動件数をご存じだろうか。苫小牧市だけでなく、全国で今、この瞬間にも消防隊の方々は町の安全を守るべく出動している。

消防といえば消防車なのだが、実は救急車でも出動している。2020年度の消防車の出動件数は950件と低い数字ではないのだが、救急車の出動件数は7346件と、消防車の出動件数のおよそ7.5倍と、圧倒的な数になっている。その内訳は下の表の通りだ。どちらも1位と2位との差が大きくなっている。計8300件/1年間に出動していて、消防隊の方々は町の安全のため出動しているのだが、8300件全てが適切な利用という訳ではない。タクシーのような感覚で救急車を呼ぶという適切ではない利用をする人もいる。このような利用が発生してしまうと、本当に必要としている人のところへ行くのに遅れる可能性があり助けられる命も助けられなくなってしまう。消防、救急車を利用の際は、緊急性があるかをしっかり考えて判断する必要がある。

昨年の出動件数の合計が8300回、1件でも少なくするためには市民の意識が最も重要だ。対策をすることも大事だが、一番は自分が事故を起こさないという気持ち、そしてそれを広めていくことだ。

それでももし目の前で事故が起こってしまった場合、自分だけで行動せず必要なことを考え、大人を呼ぶこと、消防の方に中学生の自分でも手伝えることがあるかを聞き、それに従って行動してほしい。

令和2年度消防出動件数

位	消防車	救急車
1	警戒([illegible]) 336件	急病 5204件
2	救助 92件	一般負傷 1007件
3	火災 50件	転院搬送 683件
その他	466件	324件
計	950件	7346件

※苫小牧市内の数字

主張

人間と動物は共存できるのか

僕は、動物と人間の安全性という観点から獣害事件を減らすためには、人間と動物がお互いのテリトリーに入らないようにすることが重要だと考える。

人間のテリトリーに入り、人間や人間の食べ物の味を覚えた動物は、何度追い返しても戻ってきてしまうため、一度そうなってしまえば、駆除するしか道がなくなってしまうのだ。

それらの「味」を覚えていない動物なら、人間の危険性を教える、フェンスを作るなどをすることで、農作物などへの被害も減らしながら、動物との程よい距離を置くことできるので、一石二鳥だ。

これからの考えに対して、動物に対して、動物に対してフェンスなどの、金と手間がかかることをするのなら、人里に下りてきた動物たちを駆除していけば良いのではという意見があるかもしれない。だが、下手に動物たちを駆除すると生態系のバランスが崩れ、結果的に人間が困るということが起きるのだ。どんな動物でも生態系の重要な役割を担っていることを理解するのが大切だ。

人間にも動物にも被害が出ず、衝突を避けながら暮らしていくためには、動物たちについて理解し、お互いのちょうどいい「距離感」を模索していくことが重要だ。以上のことから、僕は、人間と動物がお互いのテリトリーに入らない対策を講じることを提案する。

地域の人から見た私たち

私たちの学校には校則などのルールが無く、自分達で考えて行動することを目指している。しかし学校の外に一歩でも出れば、交通ルールや法律など様々なルールがある。そんなルールと私たちはどのように向き合っていけばよいのだろうか。

まずは中学生の斜め横断について考えよう。経験がある生徒に聞くと、「通りたい道に信号がない。」といった意見が最も多かった。しかしこういった行動は、交通ルールと向き合えているのだろうか。地域の人はこの行動をどう見ているのだろうか。この地区に住む方と保育士の方にお話を伺うと、「元気な声で挨拶してくれる」「園児にも声を掛けてくれる」という声が聞かれた一方で、「運転中に斜め横断をしている所を見た」「公園で騒いでいた」という声が聞かれた。

私たち一人一人が地域の人に見られている自覚をもって行動するべきと考える。地域の人たちと共に生活しているからこそ迷惑をかけないようにルールと向き合うことを考えて行動しなければならないのではないだろうか。

地域の名物よいとまけ

皆さんが知っているケーキ店、三星沼ノ端店。ケーキの他に、お菓子やパンなど人気の商品もある。

三星と言えば日本一食べにくいお菓子「よいとまけ」が有名である。「食べにくい。でもまた食べたい。」と思えるようなわずらわしさと美味しさが人気の秘密である。よいとまけにはハスカップが使われており、ハスカップはより多く提供できるよう、自社で作ったものを使用している。また三星には期間限定商品もあり、夏休みには子供向けの「海の生き物パン」を販売したり、季節に合わせた和菓子を商品化している。その他にソフトクリームも中学生達に人気だ。人気の秘密は乳脂肪分が多く含まれるよう濃度を高めに作っている。また割引き券を使えば150円で買えることも人気の理由である。

三星は地域の食材を使っていたり地域の特徴を捉えて商品を作っている。皆さんも近くを通った際には是非立ち寄って、お菓子などを食べてみてほしい。

編集後記

題名を菖蒲（アヤメ）という花の名前にしたのは、この花の花言葉が「希望」であり、クラスメイトが将来に希望をもってほしいという思いを込めました。

- ・編集長
- ・ライター
- ・記者
- ・デザイン

オリジナル　S 106